令和８年度　第 52 回沖縄県畜産共進会　審査講評

【種畜部門　令和８年１１月７日　開催】

各部門において、入賞牛の審査講評については、審査総括主査より具体的な講評を行っておりますので、私からは各部門の全体的な総評を述べさせていただきます。

第１部　肉用牛の部　講評

肉用牛の部につきましては、若雌１類、２類、高等登録群合わせて 36 頭の出品をいただきました。

全体の総評といたしましては、発育が極めて良好で、十分な体積、とりわけ体の伸びと深みに優れた母牛が多く、本県における改良の着実な進展を実感させるものでありました。

各出品区をみますと、若雌１類は体積感に富み、種牛性の高い牛が揃った一方、一部に肩付きや体の緩さに課題がみられました。若雌２類は充実した体積の牛が多くみられましたが、肢蹄の強さや骨味に改良が望まれます。また、高等登録群は来年開催の第 13 回全国和牛能力共進会北海道大会に向けた、３世代１セットの出品区として今回初めて設けられた区でありました。相似性が高く、改良の進んだ見事な群がある一方、世代間の改良が惜しまれた群もありました。

今後も継続して、各和牛改良組合において優良雌牛系統の保留促進等に積極的に取り組んでいただけることを期待しています。

第２部　乳用牛　講評

乳用牛の部につきましては、19 頭の出品をいただきました。

全体として、若雌群は骨格に優れておりましたが、つなぎの弱さや歩様など一部課題も見受けられました。成雌群は、乳房付着や乳房懸垂、乳頭配置、乳房の幅などに優れておりました。

各出品区をみますと、若雌１類は体高と体躯の釣合が良く品位があり、若雌２類は肋の開張と骨格構造の正確さが見られました。成雌１類は前後乳房の強い付着と靭帯の明瞭さが際立ち、成雌２類は乳器の崩れがない牛が多く出品され、また乳用牛の特質に表れる、泌乳能力を兼ね備えておりました。

日頃の熱心な飼養管理に敬意を表しますとともに、今後とも長命連産を支える強固な乳器・肢蹄づくりと、高能力と強健性を兼ね備えた牛群の改良に努めていただきますようお願い申し上げます。

【枝肉部門　令和８年１０月２７日　開催】

第３部　肉牛の部　講評

先だって 10 月 27 日に開催されました枝肉部門につきまして、ご報告と講評を申し上げます。

今回、去勢 25 頭が出品され、枝肉重量は 542.0kg と昨年同様ボリューム感に優れ、主な形質の平均を前回と比較すると、ロース芯面積の平均は 71.2 ㎠から 76.6 ㎠へ、歩留基準値は 75.6 から 76.1 と着実に向上した一方、バラの厚さは 8.5cm から 8.2cm と前回よりも 0.3cm 薄くなっていた点が惜しまれました。

肉質面では、５等級率は 88％（25 頭中 22 頭）、上物率は前回に続き 100％を達成し、BMSNo.平均も 10.6（＋0.4）と申し分のない成績でした。

出品牛の父牛は、現在最も活躍している「美百合」が 13 頭、食味性の一つである脂肪の質の一価不飽和脂肪酸（ＭＵＦＡ）の育種価が高い「百合安清」が７頭でした。

この食味性の指標であるＭＵＦＡ（一価不飽和脂肪酸）の全体平均は 55.0％でしたが、「百合安清」産子群は平均 56.2％と高く、父牛の育種価が反映した成績となっていました。

なお、25 頭中 3 頭に瑕疵が見られ、このために上位入賞を逃した枝肉もあったことは惜しまれましたので、次年度への改善を期待いたします。

この枝肉部門の素晴らしい成績は、農家の皆様が日々肥育技術の向上を目指して努力した賜物であり、深く敬意を表します。

また、本日ご覧いただいた素晴らしい種畜（繁殖雌牛）の改良が基礎となり、これが枝肉の優れた肉量・肉質を支える基盤となっております。

来年８月の「第 13 回全国和牛能力共進会（北海道全共）」を見据え、「種牛改良」と「肉質・食味性の向上」を両輪として、沖縄県産和牛の魅力が全国へ発信されることを期待申し上げ、審査講評といたします。

令和８年度第５２回沖縄県畜産共進会
審 査 委 員 長　　真 喜 志 修